

## ◆CKD診療

### 1) CKD対策の重要性

慢性腎臓病、CKD (Chronic Kidney Disease) が新たな国民病として注目されていますが、これは、腎臓病が単に透析だけに結びつくものではなく、早い段階から心筋梗塞や脳卒中を引き起こすリスクになると認識されるようになってきたことが理由として大きいです。また、最近の研究により、CKDが認知症のリスクも増加させることも分かっています。CKD対策は、透析患者を減らすという腎疾患の治療だけでなく、脳卒中や認知症、骨折、心不全といった、介護が必要になる疾患の予防にもつながります。健康な状態を維持し、質の高い生活を送るためにも、CKD対策は重要な取り組みといえます。

### 2) 当院は区東北部CKDネットワークの中核医療機関です。

東京都区東北部(葛飾区・足立区・荒川区)エリアの腎臓専門医が集まり、腎臓専門医が居る医療機関とかかりつけ医をはじめとする地域の医療スタッフがチームとして協力し治療を行う「区東北部CKDネットワーク」が立ち上がりました(事務局:東京慈恵会医科大学葛飾医療センター内)。具体的には、①行政とも協力しながら健診受診者を増やし、ハイリスクの方、およびかかりつけ医が診ているハイリスク患者さんを腎臓専門医に紹介、②腎臓専門医が精査し、よりハイリスクな患者さんに専門治療を集約、③状態が安定した患者さんはかかりつけ医の先生に戻すという、いわば2人主治医制での病診連携を目指しています(図1)。当院は、ネットワークの中核医療機関として、CKD対策を推進しております。紹介基準やCKD対策講演会などの情報も掲載しておりますので、詳しくはホームページ(<https://ku-touhokubu.tokyo>)をご覧ください。



### 3) 当院は葛飾区で唯一の腎生検実施施設です。

CKDの原疾患を確定診断するためには腎生検が必須ですので、診断をつけて治療方針を決定したら、紹介元の先生へお戻しした上で、連携しながら診療を進めていきます。

## ◆末期腎不全に対する腎代替療法

1) 当院は、血液透析・腹膜透析・腎移植後の管理という3つの腎代替療法の全てに対応可能な、都内でも数少ない医療機関の一つです。日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本腹膜透析医学会認定医、腎移植認定医、移植認定医、内科専門医・指導医が常勤していますので、あらゆる腎疾患への対応が可能です。

2) とくに腹膜透析は、東日本では最も多くの症例を診ている医療機関になりますので、経験豊富なスタッフが揃っております。お気軽にご相談ください。

3) 東京都区部災害時透析医療ネットワークにおける区東北部(葛飾区・荒川区・足立区)ブロック長および事務局長が所属する災害対策の中核病院として、災害対策やコロナ対策における地域の透析医療機関との連携にも力を入れています。



## ◆かかりつけ医の先生方へ

CKD患者数は、高齢化に伴い今後も増え続けます。限られた人数しか居ない腎臓専門医だけで対応するのは困難ですので、専門医の診察後は必ずかかりつけ医にお戻りして、軽症であれば専門医への受診は年に1回、進行例であれば数ヶ月に1回というように役割分担していく流れを構築する必要があります。先生方のお力をお借りしなければ我が国のCKD診療は成り立ちません。患者さんの全体的な状態・家族構成・好み・趣味などを熟知していて、長年にわたりその患者を診続けてきた、かかりつけ医の先生方こそが主役であることを忘れずに、われわれ腎臓専門医は関わっていきたいと考えておりますので、今後ともご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

(図1)

